

# 第3学年1組 道徳科学習指導案

児童数 27名  
指導者 塚田 勢津子

## 1 主題名 ありがとうの気持ち [ 内容項目 B 感謝 ]

### 2 ねらい

自分たちの日常生活を支えている人々の存在に気付き、それぞれどんな思いで毎日仕事をしているのかを話し合う活動を通して、存在意義に対する理解を深めながら、尊敬と感謝の念をもって行動していこうとする態度を養う。

教材名 「おいしい給食」 (出典 「小学どうとく はばたこう明日へ 3 教育出版」)

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいや指導内容について

小学校第3学年及び第4学年の指導の観点は、「家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。」である。これは、小学校第1学年及び第2学年の「家族など日頃お世話になっている人に感謝すること。」を受け、小学校第5学年及び第6学年の「日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。」、さらに、中学校の「思いやりの心を持って人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や過去の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。」へと発展する。自分の日々の生活は、多くの人々の支えがあることを考え、広く人々に尊敬と感謝の念を持つことに関する内容項目である。

この時期の児童は、感謝する対象を家族など日頃お世話になっている身近な人々に加え、日常生活を支えてくれている地域の人々や、現在の生活を築いた先人達へと広げて考えることができるようになってくる。しかし、自分の幸せな日常は当然のこととして捉え、自分中心の行動をとることは少なくない。自分たちの安全で安心な暮らしは、様々な人々の長きにわたる努力や思い、惜しまぬ努力によって存在していることに気づかせ、尊敬と感謝の念をもって接すること、さらには、自分も人々の善意に応え、何をすべきかを自覚し、実践させていくことが必要であると考え。

#### (2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、給食の時間が大好きで、元気よく「いただきます」「ごちそうさま」と言える児童が多い。また、目の前にいる先生や友達から何かをしてもらった時には「ありがとうごさいます」や「ありがとう」という感謝の言葉を素直に言うことができ感謝の気持ちを伝えられる。しかし、言葉にはするものの、普段身の回りでお世話になっている方々に対し、感謝の思いは浅く、日々の生活を支えてもらっていることに慣れ、当たり前のように過ごしている児童がほとんどであるといえる。そこで、自分たちの日常生活を支えている人々が、それぞれどんな思いで毎日仕事をしているのかを話し合う活動を通して、関係する多くの人々の存在に気付き、尊敬と感謝の念をもって行動していこうとする態度を育てたい。

#### (3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、毎日の給食を楽しみにしている足立区立千寿本町小学校の子供たちが主人公である。子供たちは、人気メニューの小松菜パンに練り込まれている甘くておいしい小松菜を育てる宇佐美さんの農場へ行く。作物について学ぶ中で、宇佐美さんが一日に何度も畑に行き、心を込めて小松菜を育てていることを知る。小松菜を育てる宇佐美さんや給食を作ってくださる皆さんのおかげで、毎日おいしい給食を食べられることに気付く。給食を残すことは生き物の命を捨てることであり、作ってくださった皆さんの気持ちも一緒に捨てることであると考え、ありがとうの気持ちを込めて行動していこうとする内容である。

話合いの中では、食べる人のことを考えて野菜を育ててくださる方の存在を目にした子供たちの気持ちを考えさせる。そして、自分たちの給食を支えている人たちがどれ位いるのかに目を向けさせた上で、支えている側の立場になって、それぞれの思いを考えさせていく。多面的多角的に話し合う活動を行いながら、給食を支えている人々についての理解を深め、尊敬と感謝の念をもって行動していこうとする児童を育てていきたい。

### 4 研究テーマとの関連

本研究では、テーマを『新しい時代に求められる資質・能力を育む授業の創造』として取り組み3つの資質・能力の育成をねらいとしている。そこで、本授業では、道徳的価値「感謝」の視点と「環境教育」の視点とを結びつけた道徳の授業を展開する。児童に「一人一人が感謝の気持ちを持って行動していくとどんな未来につながるのだろう」と課題を投げかける。ねらいを明確にするために事前の調査で意識を高め、「自分達の生活（給食）を支えてくれている人は、

どれくらいいるのか。どんな思いで毎日仕事をしているのか」を中心発問に設定する。話し合いの場面では、生産者、考案者、運搬者、調理者、処理者、家族など、支える側の立場になって、思いを考えられるようにグループで話し合わせていく。給食を食べる小学生へのメッセージとして吹き出しカードに書かせていく。考えの理由を問いながら黒板に貼り、可視化して価値に迫る。また、終末には、残食が抱える環境問題にも触れ、地球温暖化を止める自分達の未来にもつなげて考えを深められるようにする。子供たち一人一人が、感謝の念を持ち、今後どのように生きていきたいかについて考えを深めさせていきたい。

(1)教材の工夫

本教材は、日頃お世話になっている人々の存在に気付き感謝することができるよう心を育てていく教材である。感謝の形の一つには、残食を減らすことがあげられ、環境についての考えを見通し、感謝の価値に迫るのに適しているといえる。そこで、副読本を資料の一つとし、感謝の行為に対する考えを深める材料として役立てる。

(2)指導の工夫

①学習活動の工夫

本時の学習活動では、中心発問の場面で話し合い活動を取り入れる。それぞれの立場で吹き出しカードに思い（小学生へのメッセージ）を書かせ、板書で可視化する。ふり返りの場面では、これまでの自分を振り返り、これからの自分に生かせること、どのように生きていきたいかを書く活動を取り入れながら、感謝の念をもって行動していこうとする態度を育てる。

②板書・掲示の工夫

本時の板書では、グループでの話し合い活動の中で考えの理由を問いながら吹き出しカードを板書に貼り、可視化して多面的・多角的に話し合わせ、価値に迫ることができるようにする。

5 他の教育活動との関連

事前指導	日常の観察や自分達の生活（給食）を支えてくれる人々に対するアンケート実施して、意識を高める。
道徳の時間（本時）	グループでの話し合い活動を取り入れる。それぞれの立場で吹き出しカードに思いを書かせ、板書で可視化する。ふり返りの場面では、これからの自分に生かせること、どのように生きていきたいかを書く活動を取り入れる。
事後指導	『ありがとうの心を 広げよう』道徳コーナーに児童の思いを掲示していく。
家庭との関連	学年便りや連絡帳、教育相談、懇談会での話題に取り上げ、共通理解を図る。

6 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	・指導上の留意点 ◎評価の視点 ☆副読本の活用
導入	1 事前調査をもとに問題意識を持つ。		・アンケートの結果を見せ、『感謝』についての意識を持たせる。
	2 本時の課題を知る。		・本時のねらいの価値への関心が高まるようにする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     一人一人が 感謝の気持ちで行動していくと、                      どんな未来につながるのだろう。                 </div>		
とらえる	3 教材について知る。		
	条件・情況 登場人物 ・足立区立千寿本町小の子どもたち ・甘くておいしい小松菜を育てる宇佐美さん ・毎日の給食を楽しみにしている→好き嫌いがなくなった→残さなくなった ・給食に新鮮でおいしい作物 ・実際に農園に行き作物の勉強 ・一日に何度も畑を見に行く宇佐美さんの姿		

展				<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物、条件・状況について押さえる。</li> <li>・生産者の宇佐美さんや千寿本町小の子どもたちの気持ちを考えながら聞かせる。</li> </ul>
	開	ふかめる	<p>3 話題をもとに話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宇佐美さんはなぜ、そこまでしておいしい野菜を届けたいのでしょうか。</li> </ul> <p>○給食を支えてくれている人は、皆さんの周りにどれくらいいるのでしょうか。また、その人たちは、どんな思いで毎日仕事をしてきているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支えてくれる人々に対して気付いたことや、伝えたいことはありますか。</li> </ul> <p><b>補</b> 生き物の命も、作ってくださった皆さんの気持ちも一緒に捨てることだという言葉についてどう思いますか。</p> <p><b>補</b> 嫌いな物や苦手な物もある。どうしたらいいのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いい物を作り食べてくれる人に、喜んでもらいたい。</li> <li>・小松菜のおいしさをわかってもらいたい。</li> <li>・苦手な野菜だと思っている人にも食べてもらいたい。</li> <li>・自分の作る小松菜をたくさんの人に食べてもらい、小松菜のことをもっと知ってほしい。</li> </ul> <p>①食材を育てる人 (米・野菜・動物・肉・牛 乳) 大切に育てた命を残さないで</p> <p>②作る人 (調理) 残さずおいしく食べて欲しい</p> <p>③運ぶ人 (トラック) 時間に間に合うように丁寧に届けるよ</p> <p>④考える人 (献立・集金・食材注文) 栄養たっぷり、バランスよく食べてね</p> <p>⑤片付ける人 (食器を洗う・残した物の処理) 残さずに食べて欲しい! ゴミも減ると嬉しいよ</p> <p>⑥給食費を納めてくれる家族 子供のために頑張っているよ。 好き嫌いせず残さず食べて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大切にすべき</li> <li>・簡単には残せない</li> <li>・命をいただいているんだと もっと感謝しなくては。</li> <li>・たくさんの人たちのおかげで給食が食べられる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めに減らすべき。</li> <li>・一口だけは挑戦してみる。</li> <li>・ありがたいの気持ちがあれば、がまんもできる。</li> <li>・努力することも感謝の形</li> </ul>

	☆本時の学習課題について考える。		☆『ストップ温暖化』の環境パンフレット P11 を使いゴミをめぐる環境問題に触れる。感謝の心は地球を守ることにもつながらすることに気付かせる。 ・感謝の思いを形に表すことは、私たちの未来（環境問題）にも深く関わることに気付かせる。 ・未来の子供たちからも感謝される行動について話し合い、考えを深められるように働きかける。
見 つ め る	4 自己を振り返る。 ・これまでの自分を振り返ってどんなことを考えましたか。 ・これからの自分の生き方に生かせることはありますか。	・給食が食べられるのは、当たり前のことではなかったんだ。 ・たくさんの人に支えられている。大切な命にも感謝しなければいけない。 ・残さず食べることは感謝の形だと思った。地球の環境を守ることにもつながらる。 ・一人一人が感謝の心で行動すると、みんなが優しくなるし、地球の未来も明るくなると思う。	・書く活動を通して、これまでの生活をふりかえり、自分の考えと道徳的価値を結びつけて考えさせる。更に、温暖化を止める自分達の未来にもつなげて考えを深められるようにする。 ・自分の生活を振り返り、学習で大切だと思ったこと、これからの自分について書かせる。 ◎自分との関わりで捉えた感謝の形について、具体的に記述している。 (ワークシート)
終 末	育 む 5 教師の説話を聞く。		○感謝の気持ちを持って行動していこうという気持ちを高める。

### 7 評価の視点

#### 【物事を多面的・多角的に捉えている様子】

- ・支える側の立場になり、思いを話し合いながら、考えを伝え合い、多面的に考えている。

#### 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・自分の生活を見つめて振り返りながら、感謝の気持ちを持って行動することの大切さについて、自分との関わりで書いている。

### 8 板書計画

<p>資 料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が感謝の心で行動するとみんながやさしくなる。</li> <li>・地球の未来も変わる</li> </ul>	<p>生き物の命 皆さんの気持ち</p> <p>すてることになる</p>	<p>絵</p> <p>やさしそう な手 ふかふかの 土 足音</p> <p>一日に何度も畑を見に行く おいしさをわかってもらいたい よるこんでほしい 苦手な子にも食べてもらいたい</p>	<p>おいしい給食</p> <p>一人一人が感謝の気持ちで行動していくと、どんな未来につながるのだろう。</p>
--	--	--	--